報道関係者各位

2011 年 7 月 28 日

特定非営利活動法人 SCOP　広報担当

節電意識高い人　避暑地観光に意欲的

～避暑地でイメージするのは長野県。行きたい避暑地は軽井沢、上高地～

・今夏のレジャー予定が決まっている人では北海道・長野県が人気
・レジャー予定地に避暑地が含まれる人は約4割
・今夏のレジャーは「経済不安」により「やや消極的」。節電への積極的協力は2割未満
・「『節電レジャー(注1)』に例年より魅力感じる」約2割
・「避暑地」と聞いて連想する第１位は長野県。行きたい避暑地も長野県が上位3位を独占
・避暑地ではぜいたくに「のんびり」「お金をかけて」、「自然」「地元の食」を楽しむ

注1： 節電が余儀なくされる状況の中、あまり電気を使わずに涼しく過ごせるレジャーを、本レポートでは「節電レジャー」と呼んでいます。

このたび、特定非営利活動法人 SCOP（本社：長野県松本市、理事長：鷲見真一）では、全国の男女 276 人を対象に「今夏の『節電』レジャー動向に関する調査」を行いました。

当法人は、主に長野県内の自治体に対する計画策定業務および調査業務を行い、それら業務を通じて自律した地域運営を促すことを目標としている団体です。

東日本大震災以後の電力不足から節電が注目される状況の中、当法人が立地している長野県では、観光立県として、「涼しい」「さわやか」な長野県への誘客を推進するなど、節電をふまえたレジャーへの期待が高まっています。

（http://www.nagano-tabi.net/sc/natsutabi/）

当法人では、こうした「節電レジャー」への関心の高まりに注目し、長野県内への誘客の際に参考となる情報を提供することを目的に、本調査を行いました。

この度、調査結果がまとまりましたので、ご報告させていただきます。

※掲載している以外のデータについてもご提供いたしますので、お気軽にお問い合わせください。

本リリースに対するお問い合わせ先
特定非営利活動法人 SCOP　（担当：畠山）
〒390-0811　長野県松本市中央 2-3-17　知新堂ビル３F-A
Tel:　(0263)36-9180　　Fax: (0263)36-9185
E-mail: info@npo-scop.jp　URL: http://www.npo-scop.jp

○調査の概要

調査手法：インターネットリサーチ

調査対象：当法人 web アンケートモニター

調査対象者：276

調査期間：6 月 7 日~6 月 20 日

設問１ 年代

	度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
20 代	12	4.3
30 代	65	23.6
40 代	91	33.0
50 代	68	24.6
60 代	35	12.7
70 代以上	5	1.8
合計	276	100.0

※平均年齢： 46.8 歳 （23 歳～85 歳）

設問２ 男女比

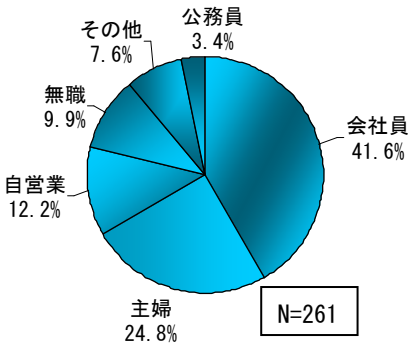
	度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
男性	143	54.8
女性	118	45.2
合計	261	100.0

設問３ 既婚／未婚割合

	度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
既婚	189	72.1
未婚	72	27.5
合計	261	100.0

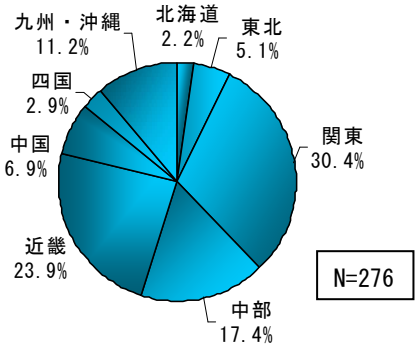
設問４ 回答者の職業

	度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
会社員	109	41.6
主婦	65	24.8
自営業	32	12.2
無職	26	9.9
その他	20	7.6
公務員	9	3.4
合計	261	100.0



設問５ 回答者の住まい分布

	度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
北海道	6	2.2
東北	14	5.1
関東	84	30.4
中部	48	17.4
近畿	66	23.9
中国	19	6.9
四国	8	2.9
九州・沖縄	31	11.2
合計	276	100.0



○調査結果の詳細（１）　今夏のレジャー(注2)意向

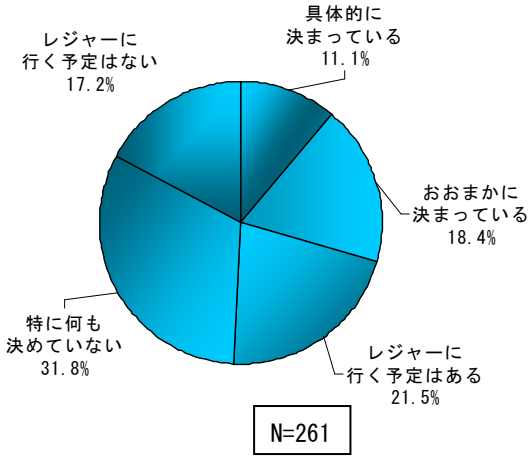
今夏のレジャーの予定が決まっている人では北海道・長野県が人気
レジャー予定地に避暑地が含まれる人は約４割

・今夏のレジャー予定を明確に決めている人は1割程度
・「ある程度予定を決めている人」における目的地では、北海道や長野県という、「涼しい場所」が人気

注2　：　ここでいう「レジャー」は、観光旅行、登山、キャンプ、避暑など、『非日常的な場所への移動をともなった余暇活動』に限定したもの。

設問６　今夏のレジャーの予定がどの程度決まっているか

	度数	パーセント
具体的な日程や行き先が決まっている	29	11.1
おおまかな行き先、日程の希望がある	48	18.4
特に予定はしていないが、レジャーに行く予定自体はある	56	21.5
特に何も決めていない	83	31.8
レジャーに行く予定はない	45	17.2
合計	261	100.0



設問７　今夏のレジャー行先候補　上位都道府県
※行先が（おおまかに）決まっているグループでの順位で、２以上の回答があったものを表示

順位		度数	全体に占めるパーセント
1	北海道	11	22.4
2	長野県	6	12.2
3	静岡県	3	6.1
3	福岡県	3	6.1
3	沖縄県	3	6.1
4	群馬県	2	4.1
4	東京都	2	4.1
4	京都府	2	4.1

※複数の都道府県に行く予定がある場合は、その中で最も行きたい都道府県を回答

設問８ 今年のレジャーで避暑地に行く予定があるか

※行先が（おおまかに）決まっているグループ内での順位

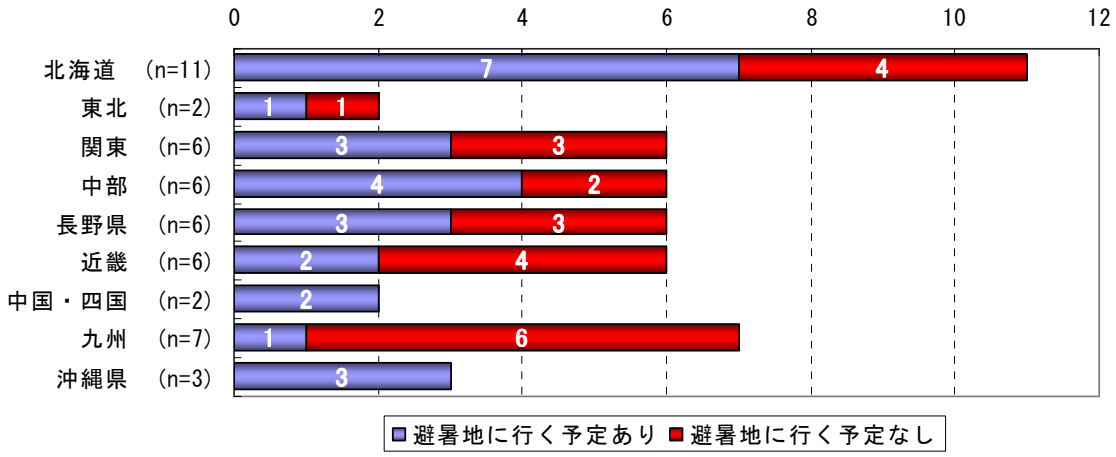
	度数	パーセント
避暑地予定あり	42	54.5
避暑地予定なし	35	45.5
合計	77	100.0

［クロス表］： **設問７** （今夏のレジャー行先候補）
× **設問８** （今夏のレジャーで避暑地に行く予定があるか）

※行先が（おおまかに）決まっているグループ内での順位

		北海道	東北	関東	中部	長野県	近畿	中国・四国	九州	沖縄県	合計
避暑地予定あり	度数	7	1	3	4	3	2	2	1	3	26
	パーセント	26.9	3.8	11.5	15.4	11.5	7.7	7.7	3.8	11.5	100.0
避暑地予定なし	度数	4	1	3	2	3	4	0	6	0	23
	パーセント	17.4	4.3	13.0	8.7	13.0	17.4	0.0	26.1	0.0	100.0

※都道府県別の結果を地方別にまとめた。特に票数の多い長野県、沖縄県は個別で表示した。



○調査結果の詳細（２）　今年と例年の夏レジャー比較

今夏のレジャーは「経済不安」により「やや消極的」

・今夏のレジャー回数は例年より減少しているが、日数では7日以上の回答がわずかながら増加しており、レジャー1回あたりの日数が一部では長期化していることがうかがえる

・今年のレジャー意欲については、「変わらない」人が最も多いが、「積極的な人」と「消極的な人」では、消極的な人のほうが多い

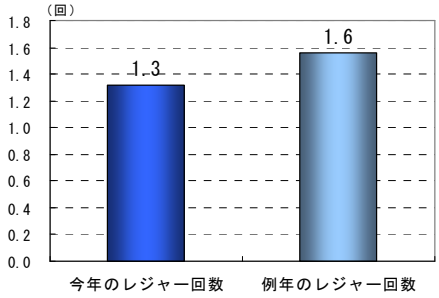
・レジャー意欲変化の理由としては、「節電」「自粛」など、震災関連の事柄より、経済状況を挙げる人が最も多かった。この結果からは、「節電」よりも、経済的な面に配慮した PR 方法のほうが訴求力が高いと考えられる

※以下、今年のレジャーについては「予定」 例年のレジャーについては「一年あたりのおおよその回数」 として回答

設問９ 今年と例年のレジャー（予定）回数

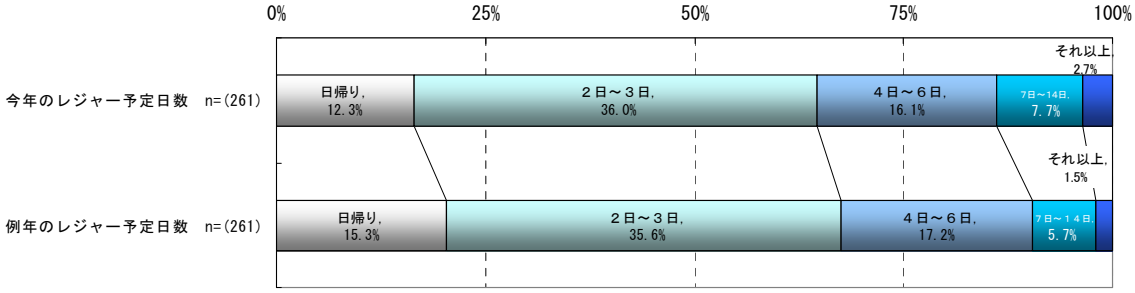
	平均	最小	最大
今年のレジャー回数	1.3	0	15
例年のレジャー回数	1.6	0	20

（N=261）



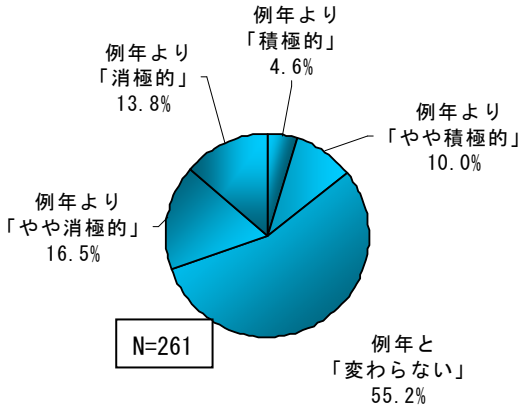
設問１０ 今年と例年のレジャー（予定）日数

	日帰り	2日～3日	4日～6日	7日～14日	それ以上	レジャーに行かない	合計
今年のレジャー予定日数	32	94	42	20	7	66	261
	12.3%	36.0%	16.1%	7.7%	2.7%	25.3%	100.0%
例年のレジャーおよその日数	40	93	45	15	4	64	261
	15.3%	35.6%	17.2%	5.7%	1.5%	24.5%	100.0%



設問１１ 今年のレジャー意欲の変化

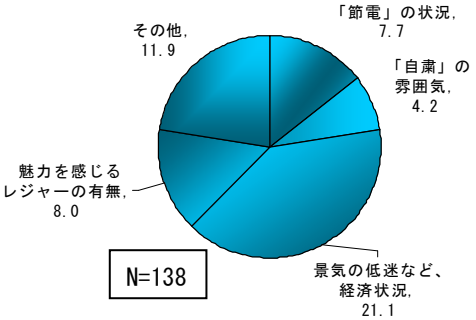
	度数	パーセント
例年より「積極的」	12	4.6%
例年より「やや積極的」	26	10.0%
例年と「変わらない」	144	55.2%
例年より「やや消極的」	43	16.5%
例年より「消極的」	36	13.8%
合計	261	100.0%



設問１２ レジャー意欲変化の理由

※例年と「変わらない」回答の人は除いた

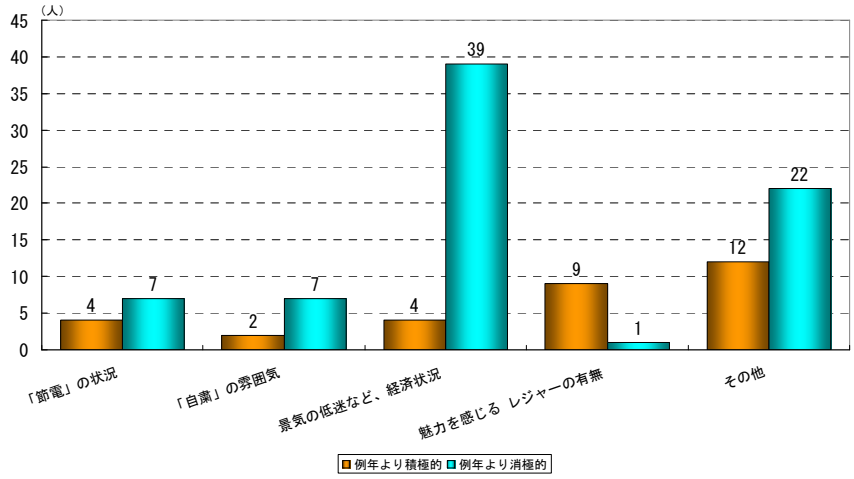
	度数	パーセント
「節電」の状況	20	7.7
「自粛」の雰囲気	11	4.2
景気の低迷など、経済状況	55	21.1
魅力を感じるレジャーの有無	21	8.0
その他	31	11.9
合計	138	52.9



[クロス表]： **設問１１**（今年のレジャー意欲の変化）

× **設問１２**（レジャー意欲変化の理由）

	「節電」の状況	「自粛」の雰囲気	景気の低迷など、経済状況	魅力を感じるレジャーの有無	その他	合計
例年より「積極的」	2	0	1	2	6	11
	18.2%	0.0%	9.1%	18.2%	54.5%	100.0%
例年より「やや積極的」	2	2	3	7	6	20
	10.0%	10.0%	15.0%	35.0%	30.0%	100.0%
例年と「変わらない」	10	2	15	11	1	39
	25.6%	5.1%	38.5%	28.2%	2.6%	100.0%
例年より「やや消極的」	4	2	25	1	10	42
	9.5%	4.8%	59.5%	2.4%	23.8%	100.0%
例年より「消極的」	3	5	14	0	12	34
	8.8%	14.7%	41.2%	0.0%	35.3%	100.0%
合計	21	11	58	21	35	146
	14.4%	7.5%	39.7%	14.4%	24.0%	100.0%



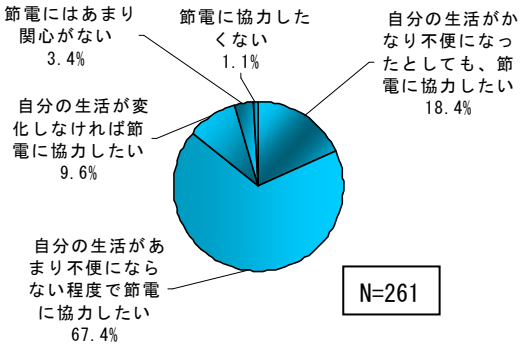
○調査結果の詳細（３）　節電に対する意識・態度

節電への積極的協力は2割未満
「『節電レジャー』に例年より魅力感じる」約2割

・節電に協力したい人は 85.8%いるが、自分の生活を犠牲にしても節電に協力したいという人は 18.4%
・節電意向別にみると、節電意向が強い人ほどその節電意向がレジャー予定に影響していると回答する傾向があることが読み取れる。したがって、節電意向の高い層向けのレジャープランが効果的であると考えられる
・避暑地訪問などの節電レジャーに参加する意向を持つ人は 34.9%。一方「例年より節電レジャーに魅力を感じる」人は 20.3%。「例年より魅力を感じる」人のうち、77.8%が節電レジャーに参加したい意向を持っている
・今回の回答者の男女比では男性が女性を 10%近く上回っていたが、節電レジャーに参加したい人全体では女性の割合の方が高かった。年代別にみると、40 代までは女性の割合が高く、50 代以上では男性が逆転している。このため、40代までの女性をターゲットとしたプラン、50～60 代の男性をターゲットとしたプランを提示することが有効だと考えられる

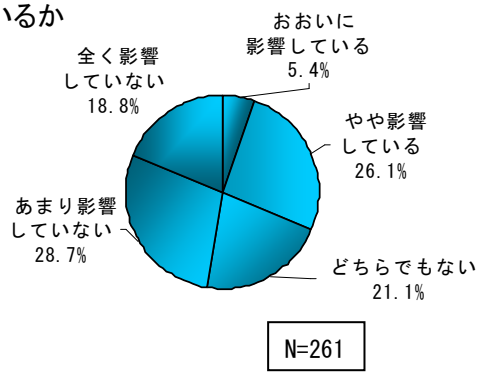
設問１３ 節電意向

	度数	パーセント
自分の生活がかなり不便になったとしても、節電に協力したい	48	18.4
自分の生活があまり不便にならない程度で節電に協力したい	176	67.4
自分の生活が変化しなければ節電に協力したい	25	9.6
節電にはあまり関心がない	9	3.4
節電に協力したくない	3	1.1
合計	261	100.0



設問１４ 自分の節電意向がレジャー予定にどの程度影響しているか

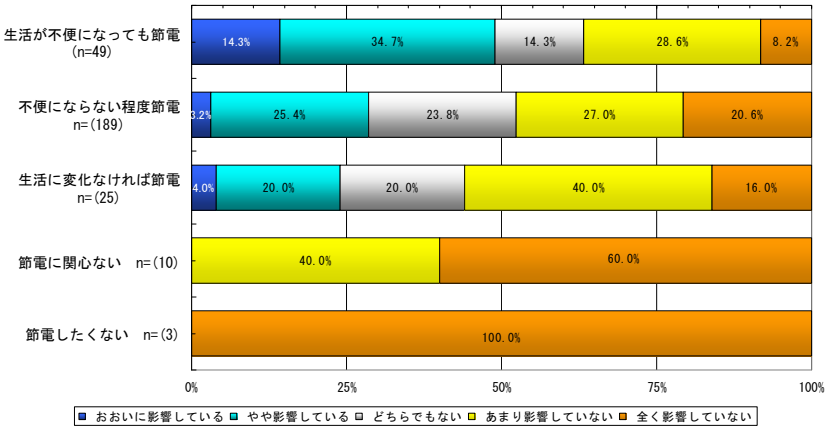
	度数	パーセント
おおいに影響している	14	5.4
やや影響している	68	26.1
どちらでもない	55	21.1
あまり影響していない	75	28.7
全く影響していない	49	18.8
合計	261	100.0



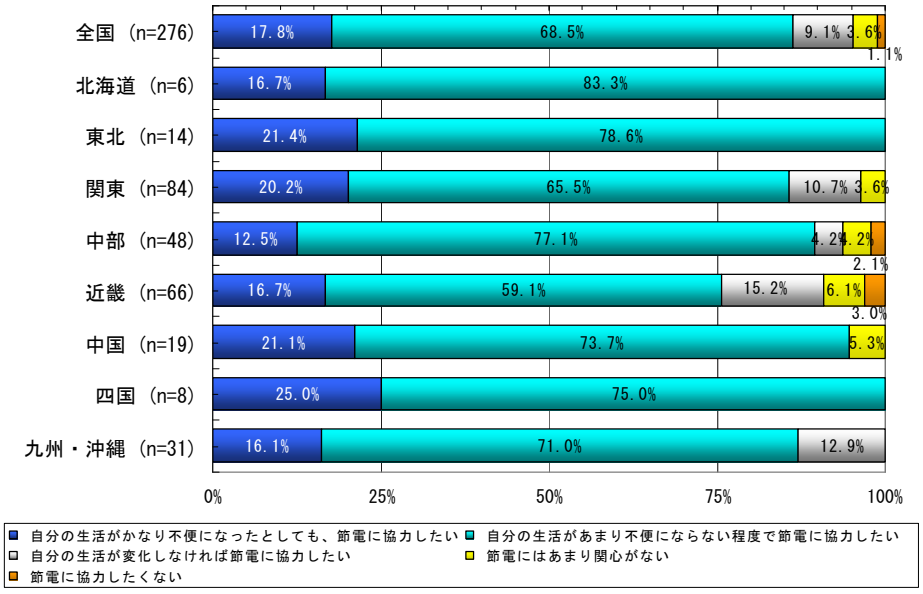
［クロス表］： 設問１３（節電意向）

× 設問１４（自分の節電意向がレジャー予定にどの程度影響しているか）

	節電意向がレジャー予定にどの程度影響しているか					
	おおいに影響している	やや影響している	どちらでもない	あまり影響していない	全く影響していない	合計
自分の生活がかなり不便になったとしても、節電に協力したい	7	17	7	14	4	49
	14.3%	34.7%	14.3%	28.6%	8.2%	100.0%
自分の生活があまり不便にならない程度で節電に協力したい	6	48	45	51	39	189
	3.2%	25.4%	23.8%	27.0%	20.6%	100.0%
自分の生活が変化しなければ節電に協力したい	1	5	5	10	4	25
	4.0%	20.0%	20.0%	40.0%	16.0%	100.0%
節電にはあまり関心がない	0	0	0	4	6	10
	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	60.0%	100.0%
節電に協力したくない	0	0	0	0	3	3
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
合計	14	70	57	79	56	276
	5.1%	25.4%	20.7%	28.6%	20.3%	100.0%

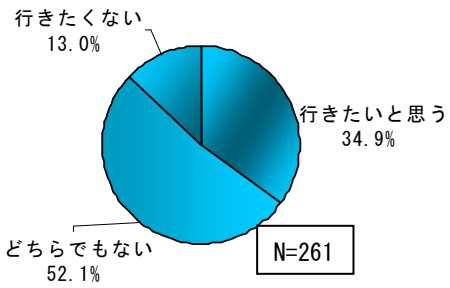


（参考：居住地別　節電意向）



設問１５－１　「節電レジャー（避暑地訪問など）」参加意向

	度数	パーセント
行きたいと思う	91	34.9
どちらでもない	136	52.1
行きたくない	34	13.0
合計	261	100.0



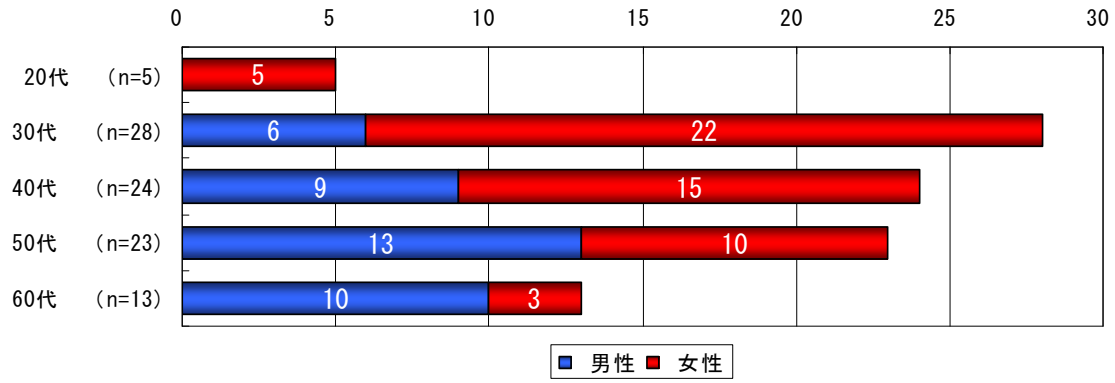
設問１５－２　　**設問１５－１**で「『節電レジャー』に行きたい」と回答した人の属性

※ [クロス表]: **設問１**（年代）× **設問２**（性別）

		男性	女性	合計
20代	度数	0	5	5
	パーセント	0.0	100.0	100.0
30代	度数	6	22	28
	パーセント	0.2	0.8	100.0
40代	度数	9	15	24
	パーセント	37.5	62.5	100.0
50代	度数	13	10	23
	パーセント	56.5	43.5	100.0
60代	度数	10	3	13
	パーセント	76.9	23.1	100.0
合計	度数	38	55	93
	パーセント	40.9	59.1	100.0

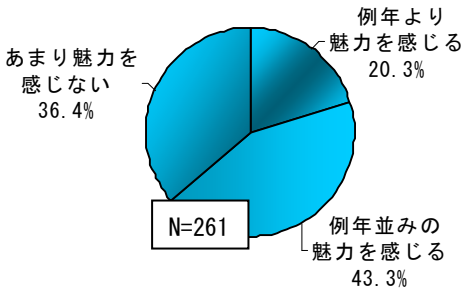
		男性	女性	合計
20代	度数	0	5	5
	期待値	2.0	3.0	5.0
	度数－期待値	-2.0	2.0	
30代	度数	6	22	28
	期待値	11.4	16.6	28.0
	度数－期待値	-5.4	5.4	
40代	度数	9	15	24
	期待値	9.8	14.2	24.0
	度数－期待値	-0.8	0.8	
50代	度数	13	10	23
	期待値	9.4	13.6	23.0
	度数－期待値	3.6	-3.6	
60代	度数	10	3	13
	期待値	5.3	7.7	13.0
	度数－期待値	4.7	-4.7	
合計	度数	38	55	93
	期待値	38.0	55.0	93.0

※期待値は、「このあたりの値になる見込み」の値。実際の度数と期待値の差が大きいセルには、何らかの偏りが生じている可能性がある。



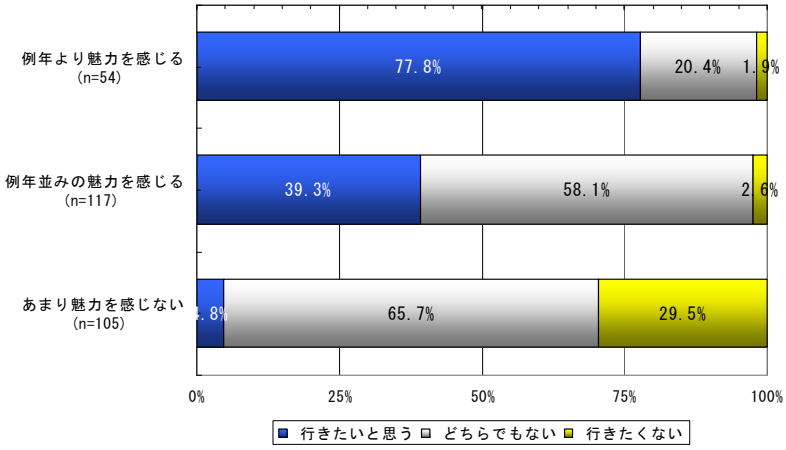
設問１６　「節電レジャー」に魅力を感じるか

	度数	パーセント
例年より魅力を感じる	53	20.3
例年並みの魅力を感じる	113	43.3
あまり魅力を感じない	95	36.4
合計	261	100.0

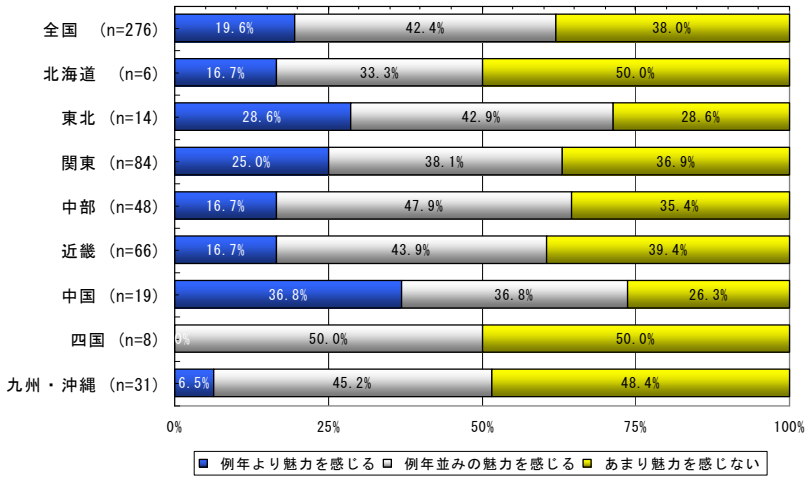


［クロス表］：設問１５-１（「節電レジャー」参加意向）
× 設問１６（「節電レジャー」に魅力を感じるか）

	行きたいと思う	どちらでもない	行きたくない	合計
例年より魅力を感じる	42	11	1	54
	77.8%	20.4%	1.9%	100.0%
例年並みの魅力を感じる	46	68	3	117
	39.3%	58.1%	2.6%	100.0%
あまり魅力を感じない	5	69	31	105
	4.8%	65.7%	29.5%	100.0%
合計	93	148	35	276
	33.7%	53.6%	12.7%	100.0%



（参考：居住地別　「節電レジャー」魅力）



○調査結果の詳細（４）　行きたい避暑地

「避暑地」と聞いて連想する第1位は長野県
行きたい避暑地も長野県が上位3位を独占

・「避暑地」と聞いて思い浮かべる都道府県では、長野県を挙げる人が過半数にのぼり、「避暑地としての長野県」が強く浸透していることを示す結果となった
・行きたい避暑地（首都圏から程近いもの）、では、軽井沢、上高地、安曇野など、長野県の避暑地が上位を独占しており、長野県にある避暑地の人気が高いことがうかがえる
・反面、実際に行ったことのある観光地では、箱根、富士五湖、日光との回答が多くの回答を集め、4 位の伊豆に続いて、5 位にようやく軽井沢の名前が登場する。「避暑地としての長野県」イメージは浸透しているものの、来訪経験は他の避暑地と比べるとまだ多くないのが現状である
・避暑地需要がわずかに高まっている今年は、避暑地を多く抱える長野県に大きなチャンスがあるといえる

設問１７ 避暑地と聞いて連想する都道府県 **（自由回答）**

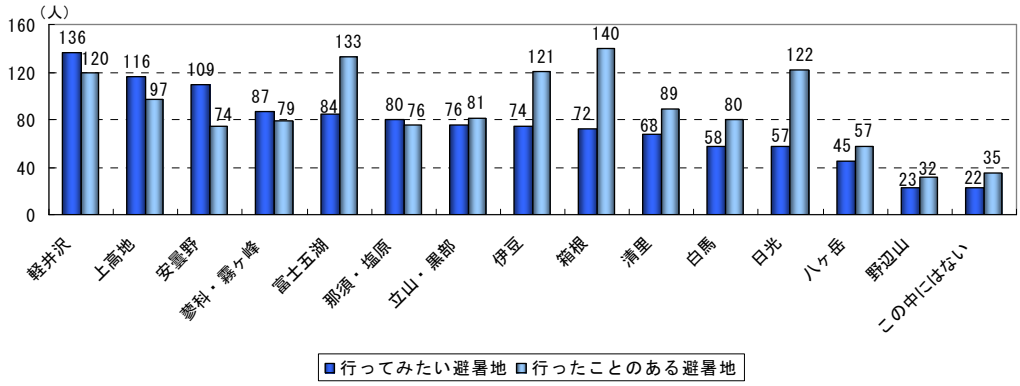
	度数	パーセント
長野県	155	65.68
北海道	60	25.42
群馬県	4	1.69
回答数が２以下の都道府県 （ 栃木県、神奈川県、山梨県、静岡県、福島県、石川県、福井県、京都府、長崎県、熊本県、沖縄県 ）	17	7.21

※回答が2あるいは1のものはひとつにまとめた。

設問１８ 行きたい／行ったことのある避暑地（首都圏から近いもの）　**（複数回答）**

	安曇野	伊豆	軽井沢	上高地	清里	那須・塩原	日光	白馬
行ってみたい避暑地	109	74	136	116	68	80	57	58
行ったことのある避暑地	74	121	120	97	89	76	122	80

	箱根	八ヶ岳	富士五湖	野辺山	立山・黒部	蓼科・霧ヶ峰	この中にはない
行ってみたい避暑地	72	45	84	23	76	87	22
行ったことのある避暑地	140	57	133	32	81	79	35



○調査結果の詳細（５）　避暑地での過ごし方

避暑地ではぜいたくに「のんびり」「お金をかけて」、「自然」「地元の食」を楽しむ

・一泊に払っても良いと思う金額は、避暑地以外の観光地よりも避暑地の方が高かった。避暑地で過ごすというレジャーは、贅沢なものととらえられていることが推測できる

・レジャー先を決めた理由では「のんびりしたいから」が最も多く、その他、「見たいスポットがあるから」「涼しく過ごしたいから」「食べたいものがあるから」「普段と違う体験がしたいから」といった回答が見られ、リフレッシュしたいというニーズが多くあることがうかがえる

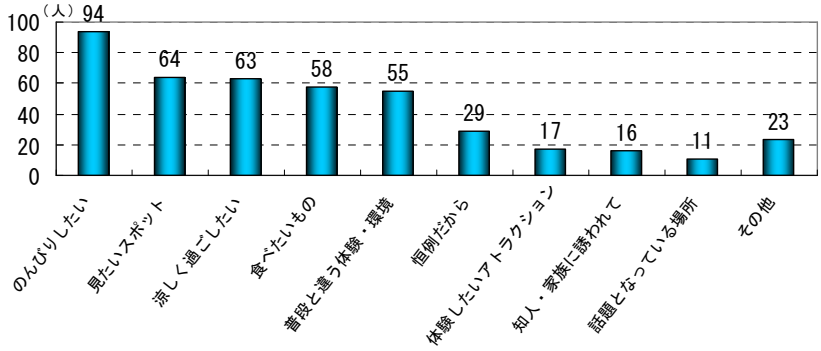
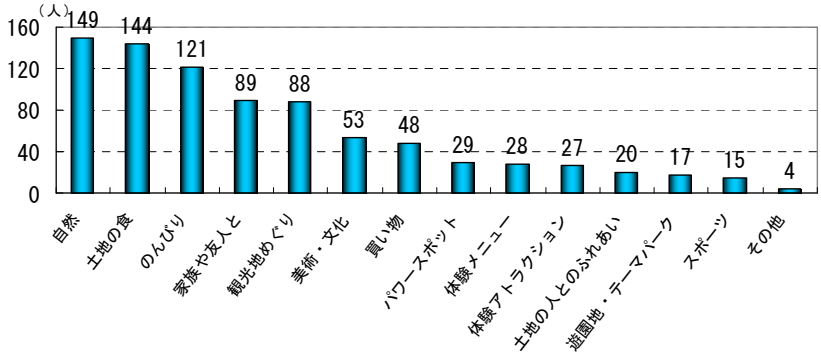
・「避暑地を訪問すると仮定したとき」の過ごし方としては、「自然」が最も多く、次いで「土地の食を楽しむ」、「のんびり過ごす」という回答が挙げられた

設問１９ 避暑地での滞在希望日数　避暑地で一泊に払っても良い金額
その他観光地で一泊に払っても良い金額

	平均値	中央値
避暑地での滞在希望日数（日）	4.2	3
避暑地で一泊に払っても良い金額（円）	17,054.4	10,000
その他観光地で一泊に払っても良い金額（円）	13,158.2	10,000

（N=276）

設問２０ 今年のレジャー予定を決めた理由　**（複数回答）**



設問２１ 避暑地に行ったらしたいこと **（複数回答）**